

腸管出血性大腸菌（O111）感染症患者の発生について

1 概要

6月15日、出雲市内の医療機関から出雲保健所に腸管出血性大腸菌（O111）感染症患者の届出がありました。現在、出雲保健所が患者及び接触者について健康調査並びに行動調査を実施しています。

2 患者

出雲市在住 70代 男性

症 状：腹痛、血便

経 過：6月 12日 血便、A医療機関を受診
13日 腹痛、救急搬送によりB医療機関を受診後、入院
15日 検査結果が判明し、B医療機関から出雲保健所へ
腸管出血性大腸菌（O111）感染症患者の届出
現在、患者は入院中ですが、回復傾向にあります。

3 対応状況

- ・患者及び接触者の健康調査（検便等）と行動調査等
- ・手洗いなど、二次感染予防の指導
- ・家庭のトイレ等の消毒指導

【県民の皆様へ】

腸管出血性大腸菌感染症の発生予防にあたり、各家庭及び食品調理施設においては、次の事項に注意して下さい。

- (1) 手洗いの励行：人から人への感染を防ぐためには、手洗いが最も大切です。
トイレの後や調理前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- (2) 飲食店での牛生レバーの提供は禁止されています。家庭においても食肉は十分に加熱して食べましょう。
- (3) 焼肉をするときは、生肉用の箸と取り箸を使い分けましょう。
- (4) 食品を扱う際の注意：中心部まで、75℃1分間以上の十分な加熱をするとともに、調理した食品はすぐ食べるようにしましょう。

また、腸管出血性大腸菌に感染した場合、重症化させないことが大切です。
腹痛、下痢、血便等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

【参考】県内の腸管出血性大腸菌感染症患者及び無症状病原体保有者の発生状況

発生年	計	無症状病原体保有者			患者		
		O157	O26	その他	O157	O26	その他
2019年	8	0	1 (1)	0	3 (1)	1 (1)	3
2020年	12	3	0	1	6 (1)	0	2
2021年	13	2 (1)	0	6 (1)	4 (1)	0	1
2022年	20	7	0	0	11 (2)	1	1
2023年	6	0	0	1 (1)	2	0	3 *

* 本件の1名を含みます。

中核市松江市分を()で再掲しています。

プライバシーを尊重した対応をお願いします。